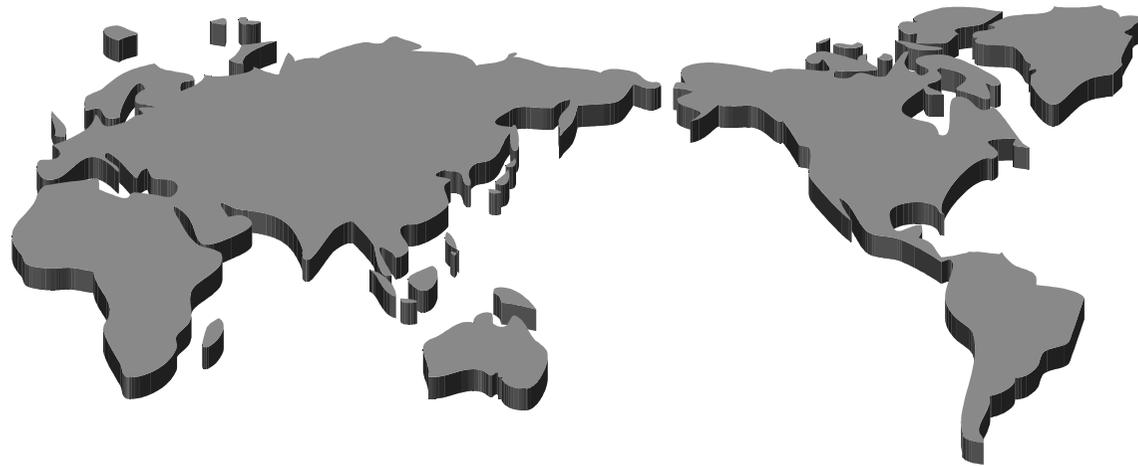


グローバルILL/DDの実現に向けて



2001年9月

国立大学図書館協議会
国際情報アクセス特別委員会

グローバル時代における 大学図書館のILL/DD

- 図書館のILL/DDもグローバルな展開が求められている。

研究者・学生の求める文献を世界の図書館から入手し提供。

日本の文献を海外に積極的に提供し、研究成果を世界に発信。



グローバルILL/DDの背景

1 . 従来 of 国際ILL/DD

- ・ 海外依頼・受付件数が少ない。
- ・ 依頼先が少数

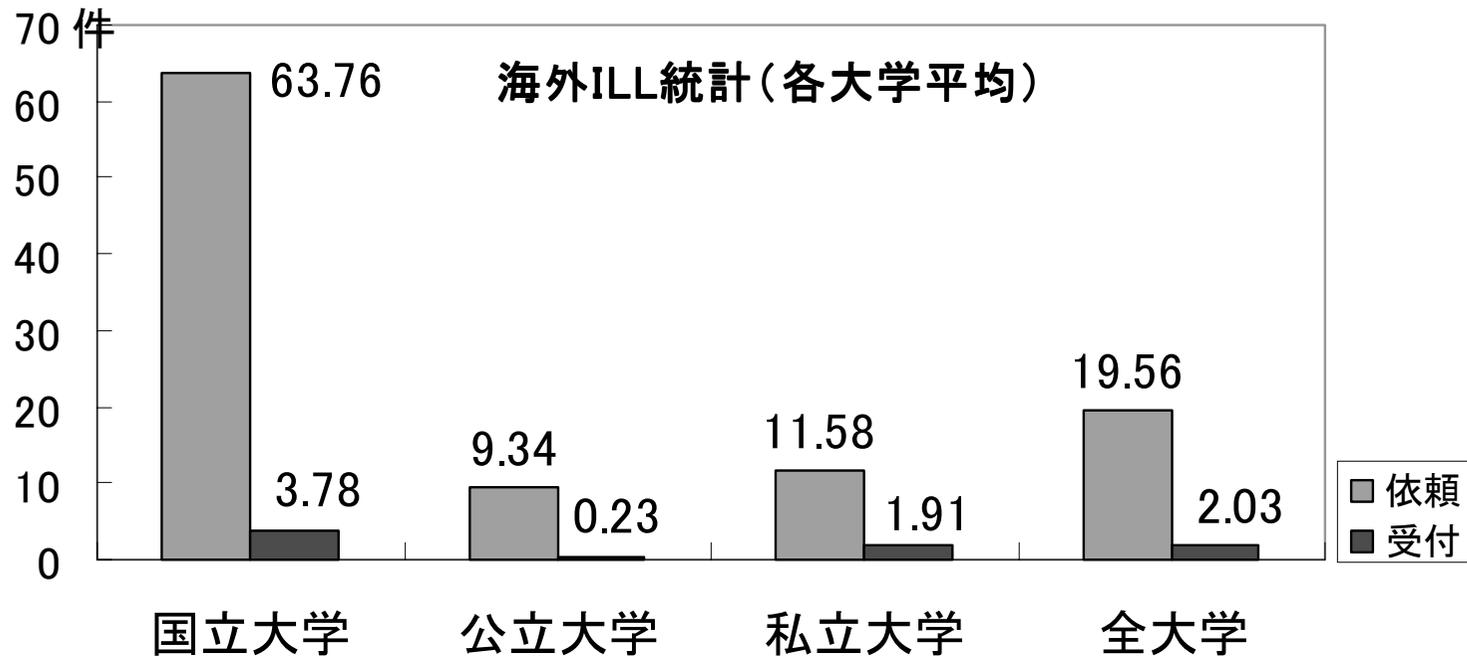
2 . CULCON（日米文化教育交流会議） における提言と改善の取り組み

- ・ CULCONにおいて改善が求められた。
- ・ 国立大学を中心に改善に取り組み。

国際ILL/DDの現状

全国大学図書館の状況

- 国内に比べて著しく国際ILLが少ない。



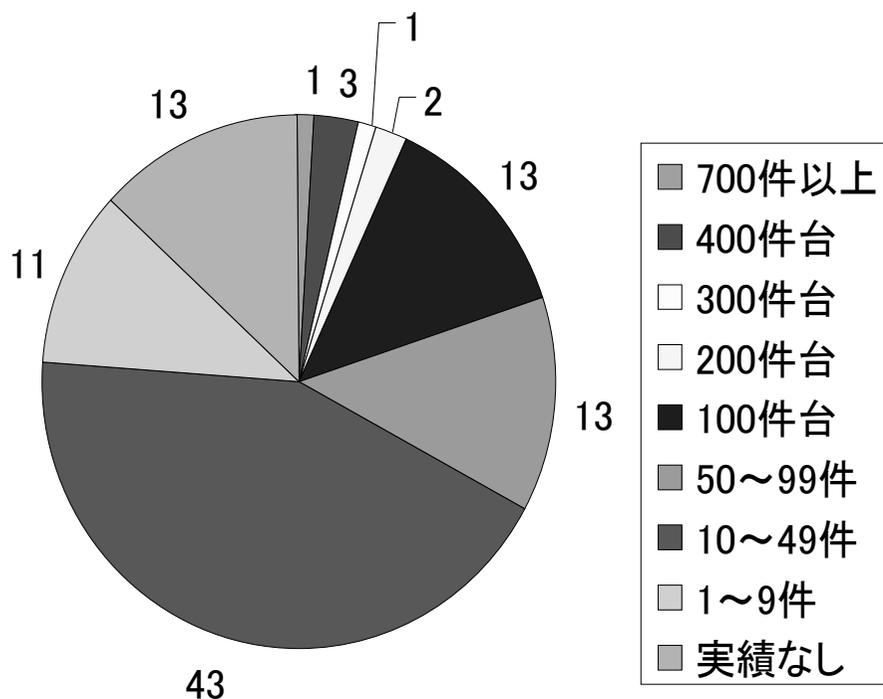
国内依頼	6693	1717	918	2584
国内受付	9190	1188	1355	1921

国立大学図書館の状況(1)

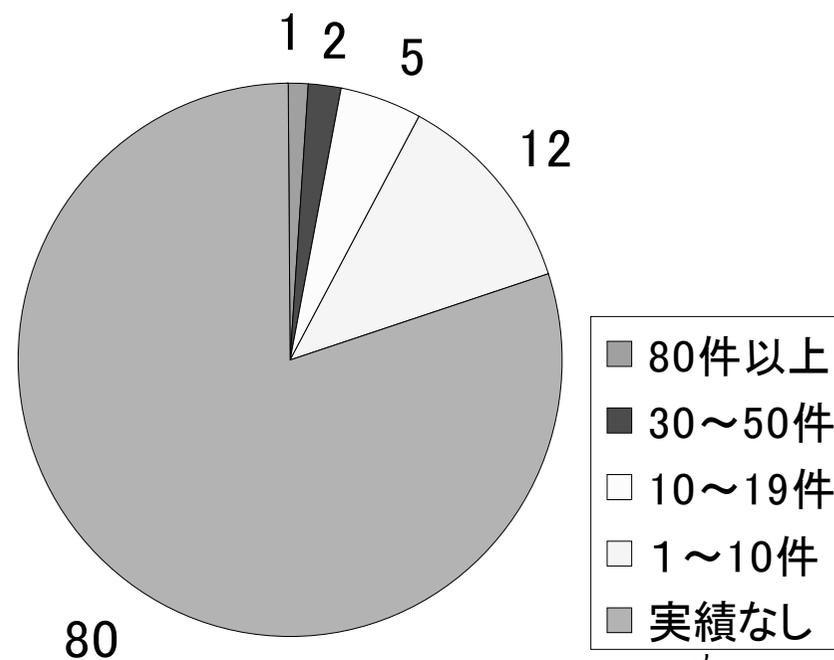
国立大学図書館協議会国際情報アクセス特別委員会平成12年度調査による (平成11年1月～12月実績)

- ・ 件数が少ない。

海外への依頼件数別大学数



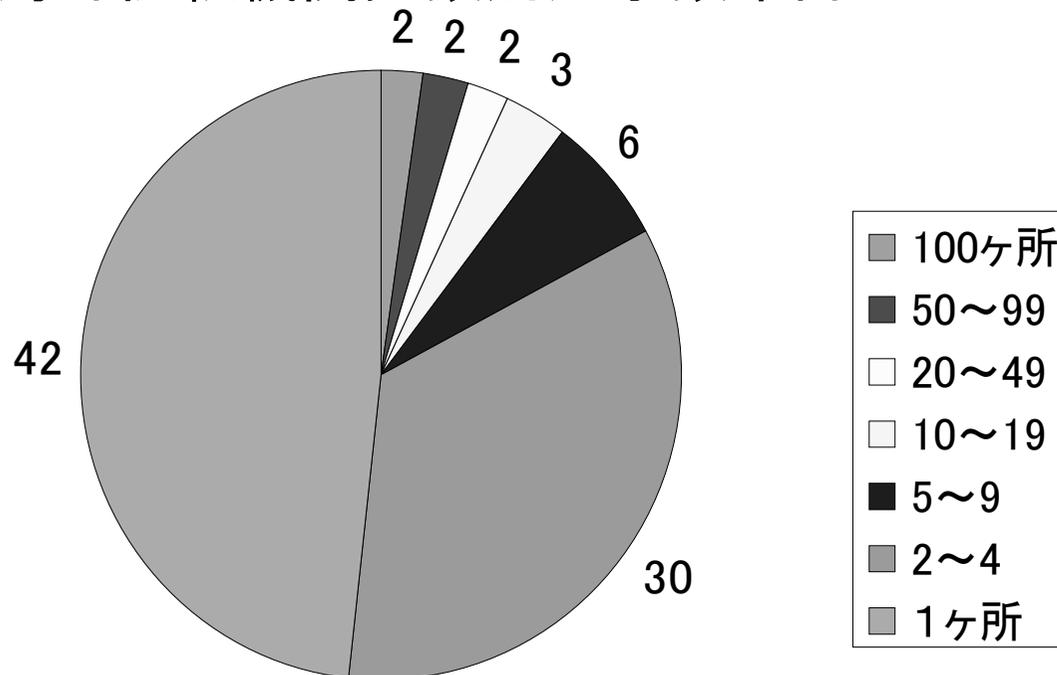
海外からの受付件数別大学数



国立大学図書館の状況(2)

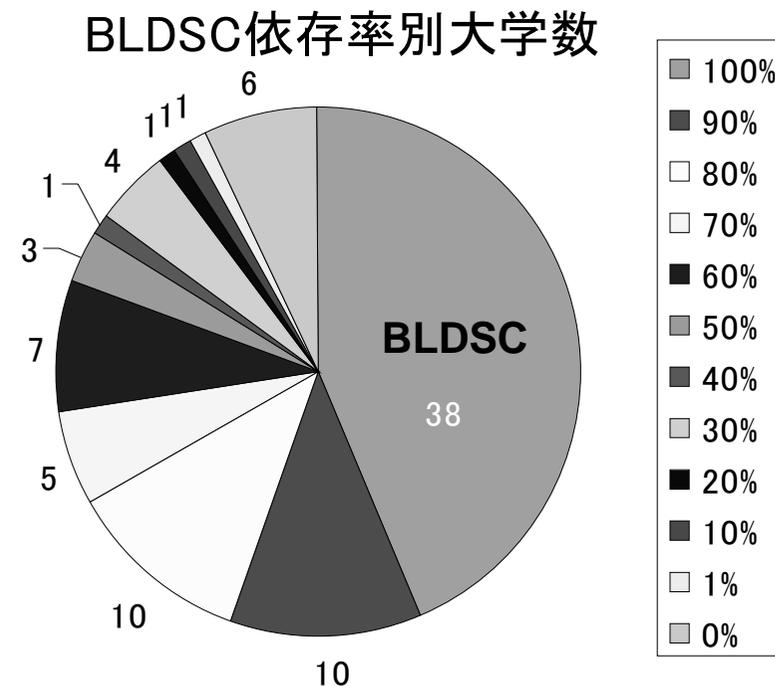
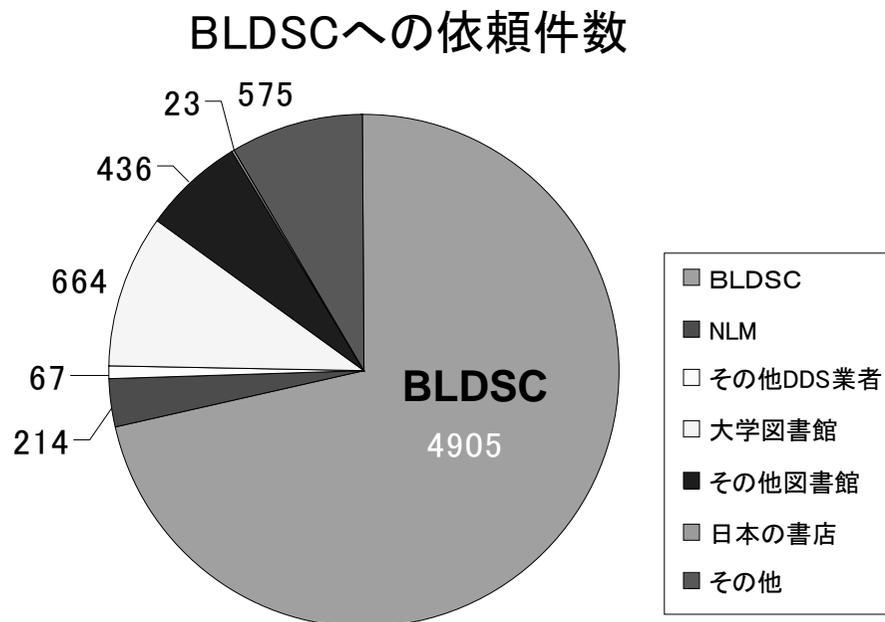
- 依頼先が少ない。

海外依頼機関先数別大学数集計



国立大学図書館の状況(3)

- BLDSCに依頼が集中



国際ILLの問題点

- 依頼
 - 海外にリクエストする簡便な方法がない。
 - 簡便な支払方法がない。
- 受付
 - 米国など海外の図書館から簡便にリクエストする方法がない。
 - 海外から料金を徴収する方法がない。



CULCONの提言と改善

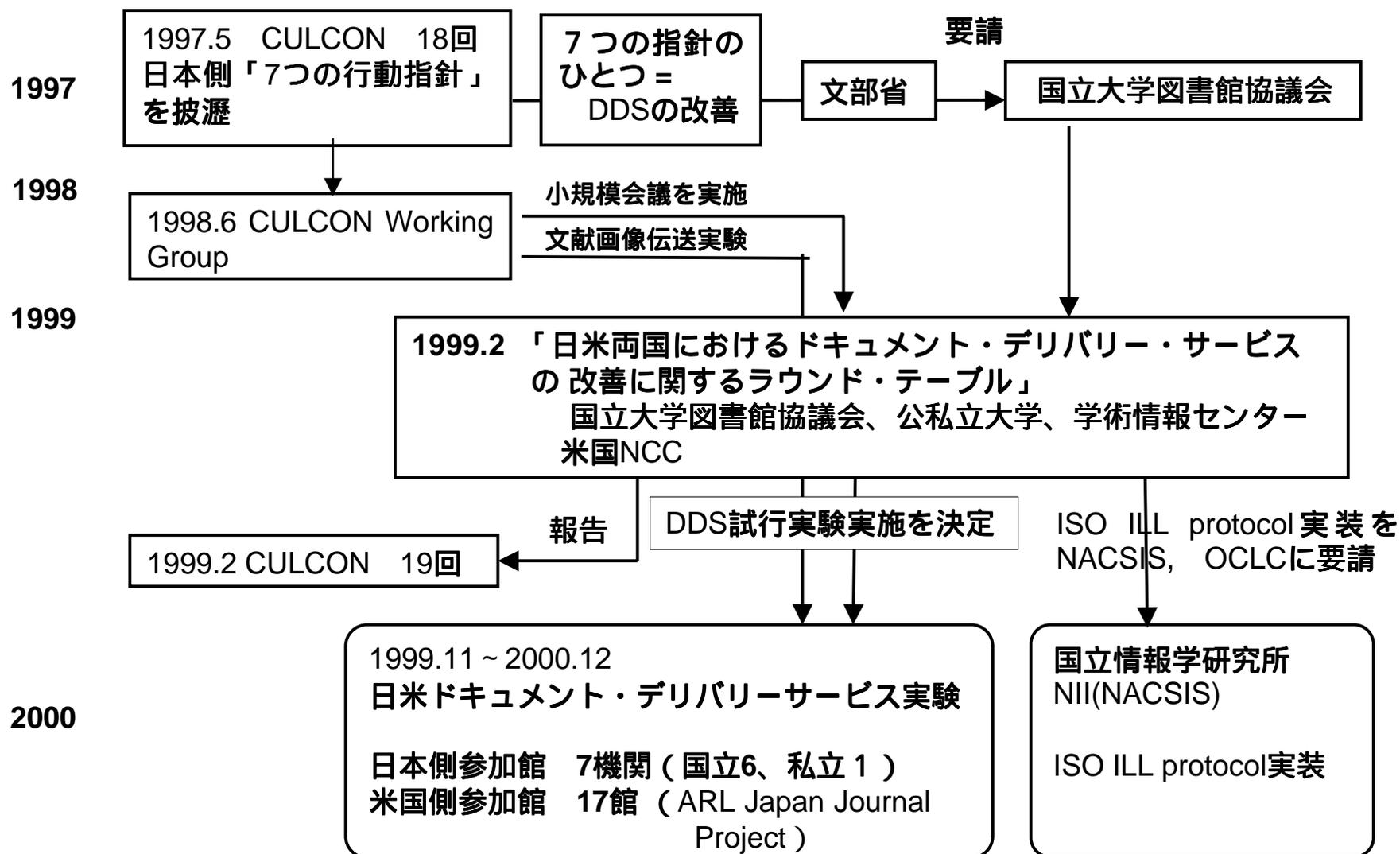
- CULCON(日米文化教育交流会議)とは

日米文化教育交流会議 (The United States - Japan Conference on Cultural and Educational Interchange : 通称 カルコン CULCON) は、1961年、当時の池田総理とケネディ大統領との合意によって成立し日米両国間の学識者を一同に集めて両国間の文化・教育交流に関する諸問題を討議し、文化・教育分野での交流の増進と相互理解の向上について勧告を行うことを目的とする。

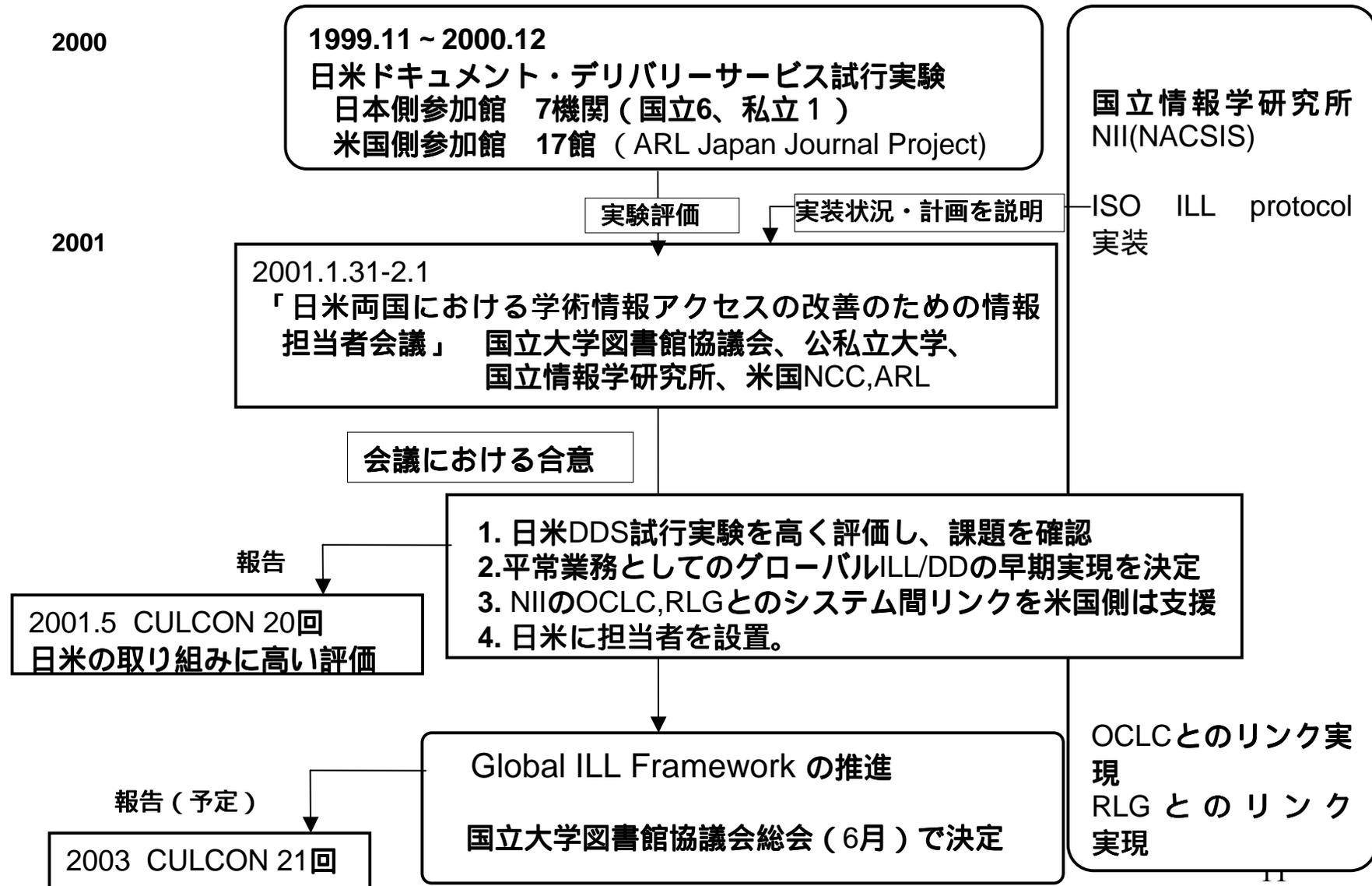
- 1995年、第17回CULCONで、情報の流れの拡大が重要であることを合意。WG設置

- 1997年、第18回CULCONにおいて、日本側から7つの行動指針のひとつとして、日米両国の図書館、情報サービス機関のドキュメント・デリバリー・サービス(原報提供サービス)を改善することを披瀝

国際ILL/DD改善の動き(1)



国際ILL/DD改善の動き(2)



国際ILLの課題と改善方策

- 海外とのILLリクエストを流通させるための方策の実現
 - 世界の書誌ユーティリティ間のグローバルなシステム間リンクによるグローバルILL/DDの実現
- 効率的かつ簡便なILL料金決済
 - 新たな料金決済方式の実現

国立大学図書館協議会のとりくみ

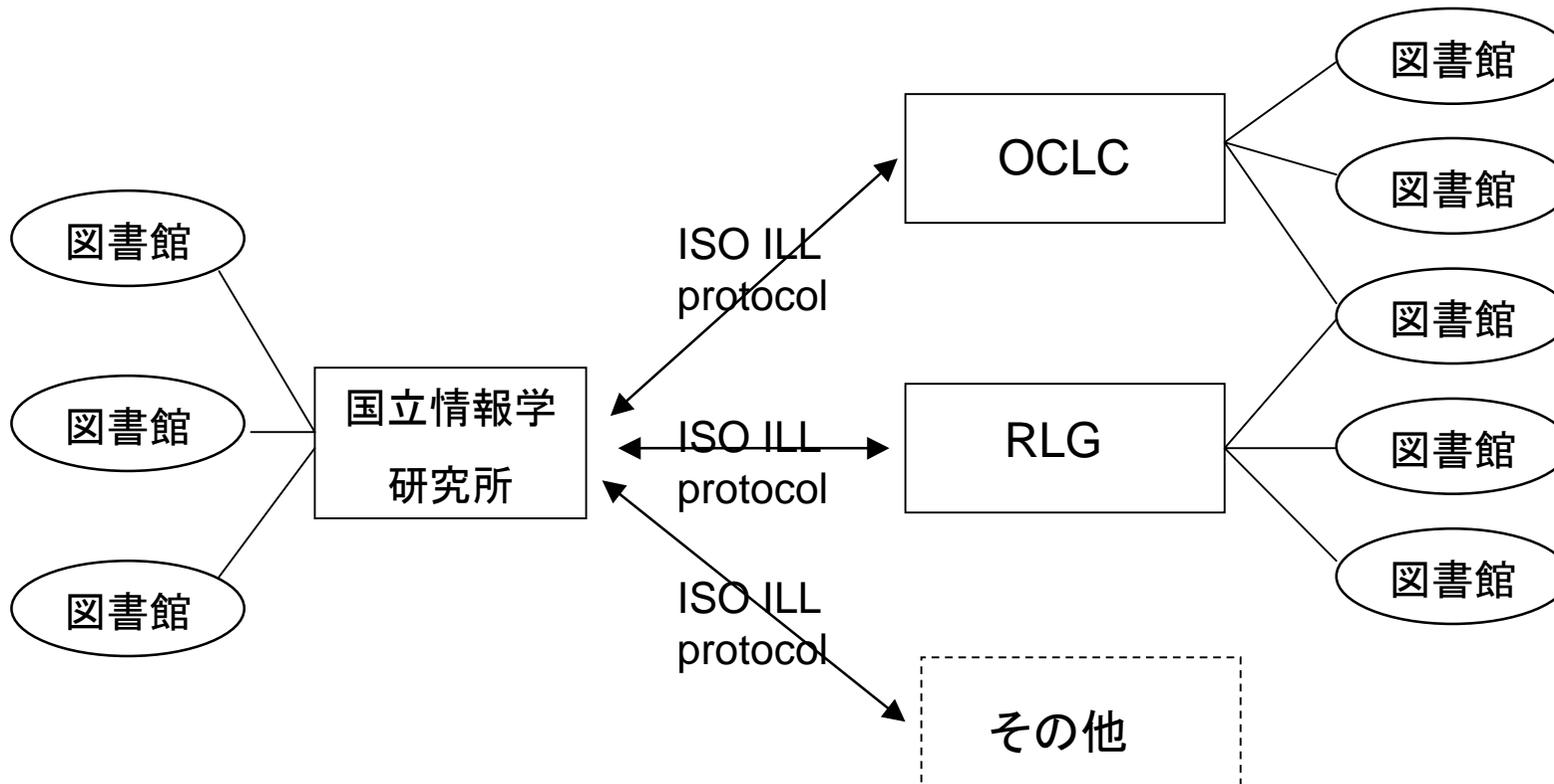
- 1999 国際情報アクセス特別委員会を設置
- 1999 日米DDSラウンドテーブルを開催
- 1999-2000 日米DDS試行実験を実施
- 2001 日米DDS試行実験総括会議を開催
- 2001 国際ILL/DDプロジェクトを設置
- 2001 グローバルILLフレームワークを提唱
- 2001 ILL料金決済方式の改善案を検討
- 関係機関・関係者との協議・連絡調整
 - 文部科学省、CULCON事務局、国立情報学研究所、国公立大学図書館協力委員会
 - 米国側関係者、団体（NCC等）

国立情報学研究所のとりくみ

- 1999 日米DDSプロジェクトを設置
- 2000 ISO ILL Protocolによるシステム間リンクの開発
- 2000 OCLC、RLGとの接続協議
- 2000 Z39.50サーバシステム、クライアントシステムの開発
- 2001 ILL料金決済支援システムの開発

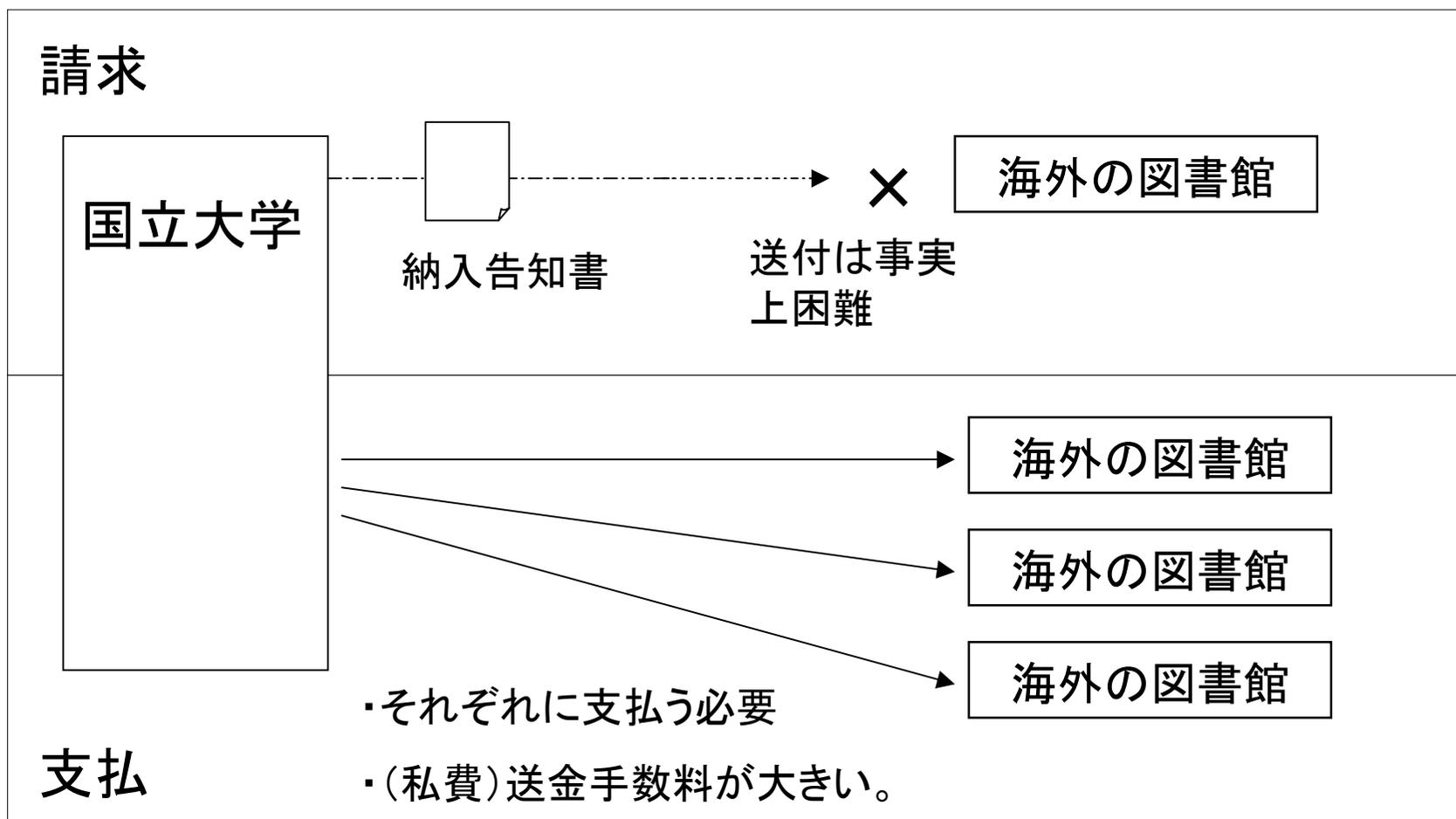
ILLシステム間の国際リンク

ISO ILL Protocolによるシステム間リンクにより、
ILLリクエストの国際流通を実現



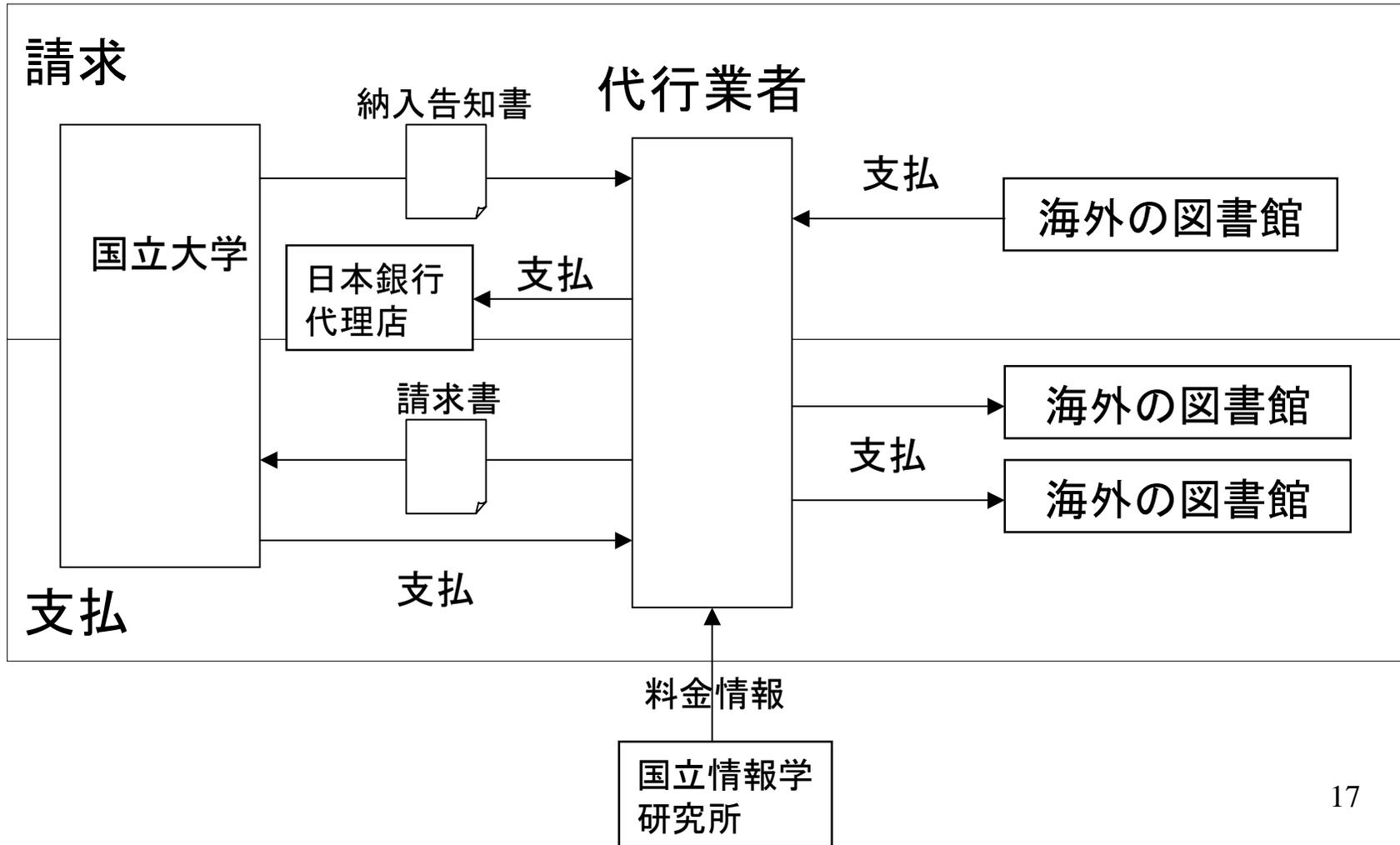
料金決済方式

- 従来 방식

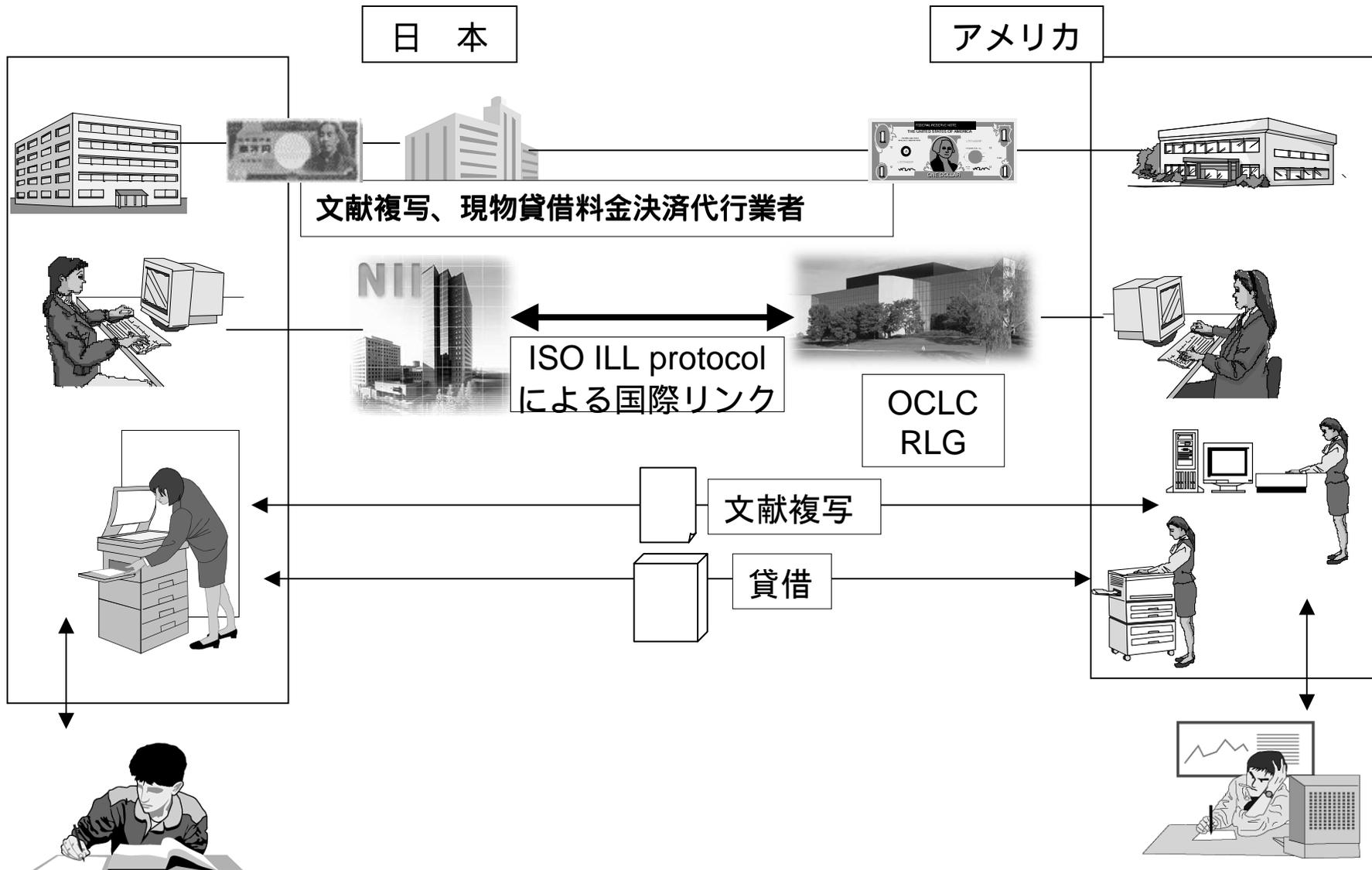


料金決済方式

- 改善方式案



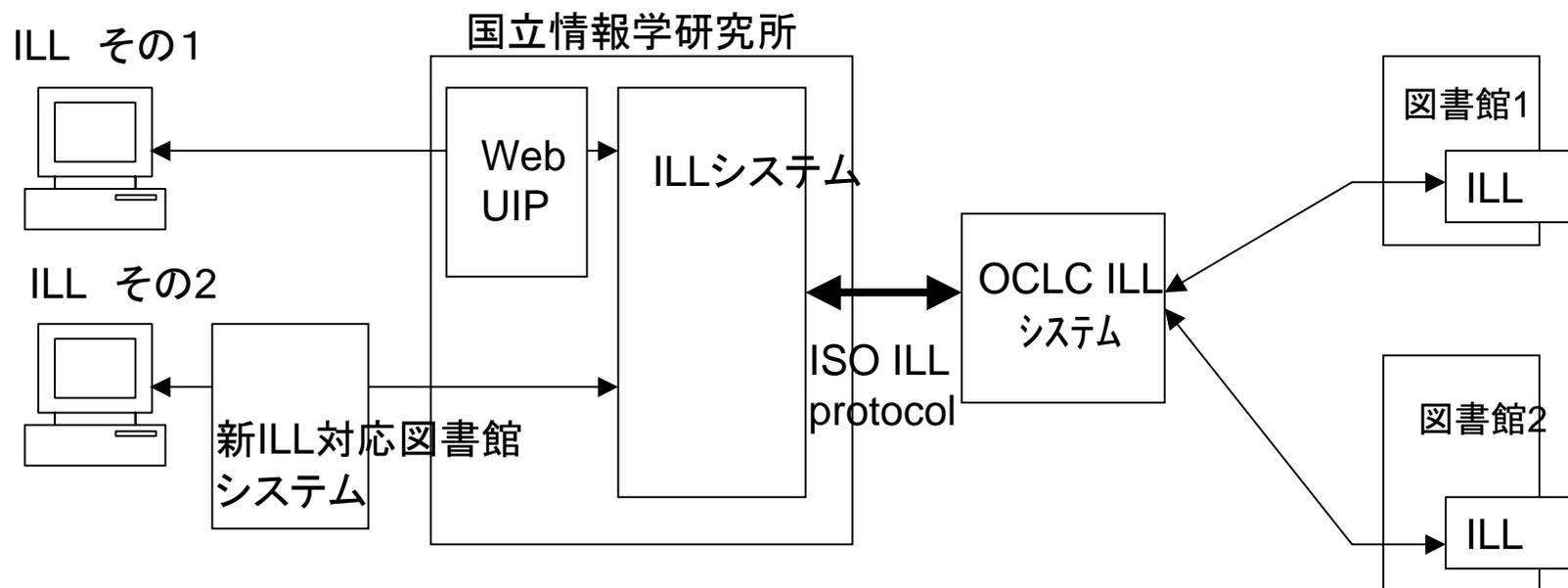
グローバルILL/DDの概要



システム利用の実際(1)

- 新ILLシステム

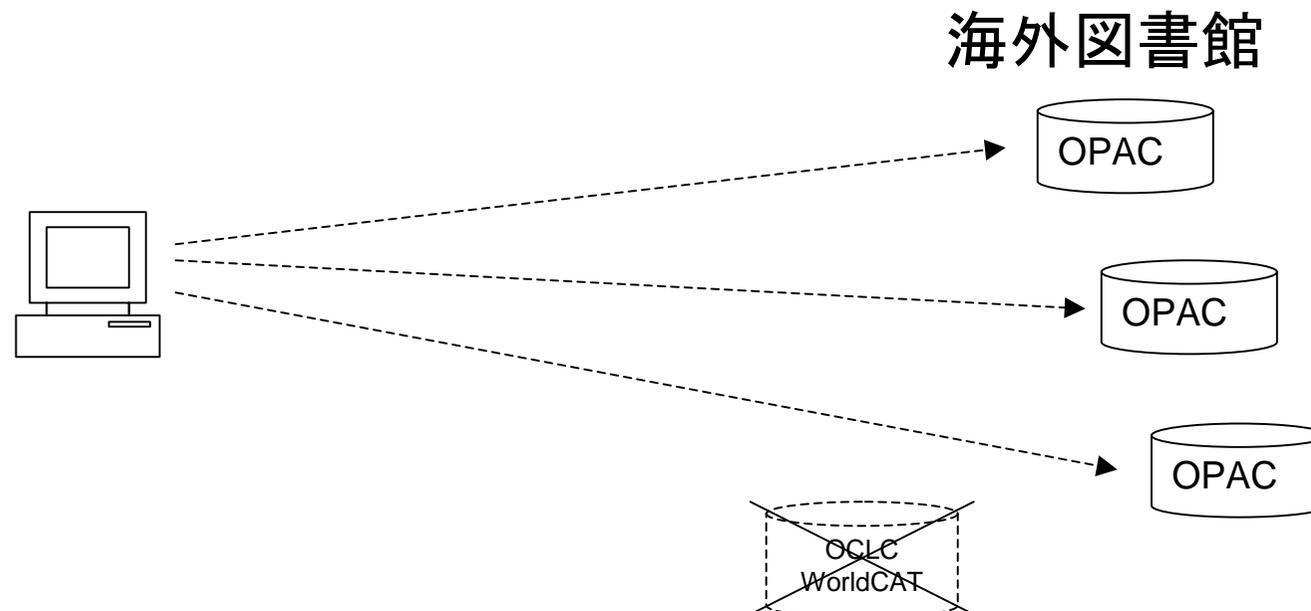
- 方式1 : 国立情報学研究所が提供するWebUIにより接続する。
- 方式2 : 新ILLに対応した図書館システムにより接続する。



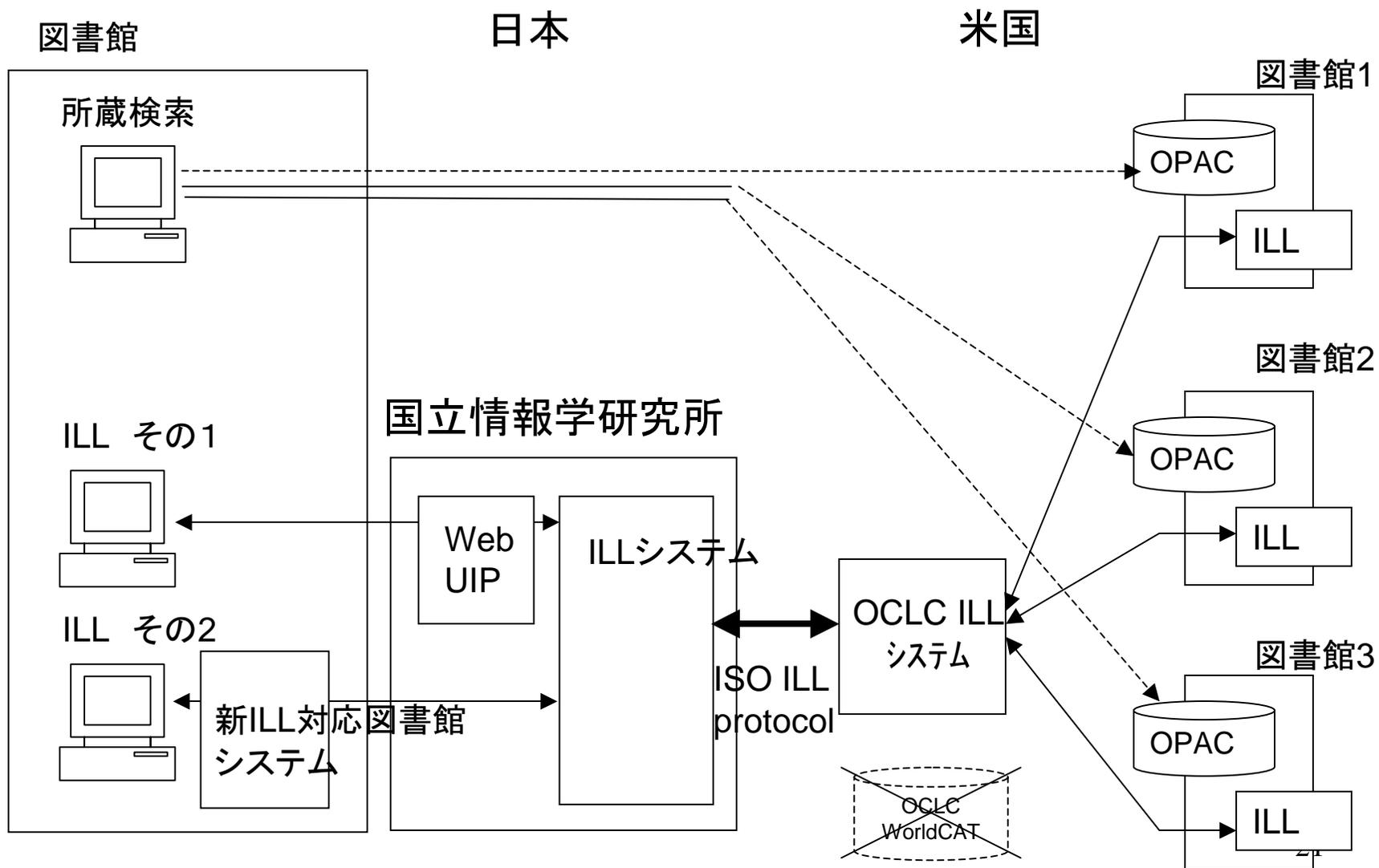
システム利用の実際(2)

- 海外図書館の蔵書検索

- 海外の各大学図書館のOPACを個々に検索



システム利用の実際(3)



システム利用の実際(4)

グローバルILL/DDの経費（OCLCの場合）



※RLGについては、登録、システム使用料などは、未定

国立情報学研究所におけるグローバルILLの 推進計画

	OCLC	RLG	Z39.50	料金決済支援
試行運用 2001年11月～	文献複写		サーバ機能 (6月～) クライアント 機能(開発中)	(開発中)
本格運用 2002年4月～	文献複写			運用開始
第2段階 2002年10月～	現物貸借	文献複写		



国立大学図書館協議会における グローバルILL/DDの推進計画

1. レンディング・ポリシー（雛型）の作成
2. 運用マニュアルの作成
3. 関係機関との連絡・調整
 - 文部科学省、国立情報学研究所等
 - 米国関係者、関係団体
4. 国公立大学への広報
5. NII接続テスト・試行運用への協力

各大学図書館の参加準備(1)

- グローバルILL/DDへの参加についての図書館としての意思決定
- 国際ILL運営方針（レンディングポリシー）の作成
 - 海外図書館向けのレンディングポリシーを作成する。
- 利用者への広報
 - 国際ILLサービス方針（BORROWINGポリシー）を作成し、利用者である研究者・学生に対し周知を図る。



各大学図書館の参加準備(2)

- 図書館ローカルシステムの対応等
 - 新ILLに対応したローカルシステム変更が必要。当面は、国立情報学研究所が開発したWebUIPを使用。
- 参加システム（OCLC）へのプロフィール登録
 - OCLCにプロフィール登録をし、ID、パスワード、図書館シンボル（図書館ID）を取得する。
- 従来の方式による実施
 - システム整備は段階的であり、従来方式も併用し各大学で国際ILLをすすめる。



グローバルILL/DDの効果

- 研究者が求める海外文献を広汎かつ、迅速に提供
- 国際的な学術情報流通に、我が国として貢献
- 料金決済（支払、徴収）事務の簡素化による学術文献流通の拡大
- 大学図書館の国際化。諸外国との対等な図書館相互利用の実現



グローバルLLフレームワークに
参加を !!



参考URL



- CULCON (日米文化教育交流会議)
<http://www.jpf.go.jp/culcon/culcon.html>
- 国立大学図書館協議会ホームページ
 - 日米両国におけるドキュメント・デリバリー・サービスの改善に関するラウンドテーブル
<http://wwwsoc.nii.ac.jp/anul/kisoku/roundtable/index.html>
 - 日米両国における学術情報アクセスの改善のための情報担当者会議
http://wwwsoc.nii.ac.jp/anul/kisoku/DDS_conference/index-j.html
- NCC (North American Coordinating Council on Japanese Library Resources)
<http://www.lib.duke.edu/ias/eac/ncc/index.htm>
- AAU/ARL Global Resources Program, Global Resources Projects
<http://www.arl.org/collect/grp/grp.html>